

一席

時

宗像市立大島学園「福岡」

三年 中村 太一

にいにが島を出た

島から出ることを恐れた小四の春

時が止まった奥の部屋

気づけば僕もにいにが島を出た年齢になった

未来を見つけれずにいる中三の夏

目の前の壁ばかり見つめ

時が僕を置いていく

辛いことは時が流し思い出になる

楽しいことは時を戻すたびに未来が遠くなる

そうして時が過ぎ

再びあの壁を前にした時

にいにの志が初めてわかった

その時候は動き出した

次は僕が時を連れて行くのだ

来年の春

僕も島を出る

